

環境経営の基本方針

環境に配慮した製品の開発・製造・販売を、経営の最重要課題のひとつとして位置づけています。

環境品質保証担当役員のメッセージ

2018年7月に発生した西日本豪雨によって被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。これらの災害を目の当たりにして、気候変動を抑制するための温室効果ガスの削減や環境負荷の低減に取り組むことは、化学物質を取り扱う企業の社会的責任であることを改めて認識しています。

気候変動を始めとしたグローバルな課題に対応するため、2015年に「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。持続可能な社会への移行に伴う企業の事業環境の変化は、環境・社会・ガバナンス課題に対応し、課題解決する企業こそが評価される時代に繋がります。これは、企業の環境面への配慮を投資判断材料として捉えるESG投資(環境・社会・ガバナンスの要素を考慮する投資)の拡大となって現れています。

当社は、経営理念「当社は、新しい価値の創造を通じて地球環境や資源を護り、広く社会の繁栄と豊かな暮らしの実現に貢献できる企業を目指します。」を踏まえながら、「持続的成長に向けて、新たな高付加価値化へ挑む」をコンセプトとした中期経営計画に取り組んでいます。この計画で、自動車産業、建築・住宅産業における素材や基材の急速な変化に対応するための「新素材センター」やメンテナンス工程の省力化、ライフサイクルコストの低減、作業環境保全、塗膜の劣化予測など多様なニーズに対応するための「防食センター」および、生産効率を改

善するための「プロセスイノベーションプロジェクト」は事業環境変化に対応する課題であり、現在、経営課題として取り組んでいます。

当社の環境対応技術の開発は、例えば、「DNT水性重防食システム」の首都高速道路への採用や、ふっ素樹脂粉体塗料「パウダーフロンCW」の武蔵野の森総合スポーツプラザのメインアリーナ外装への採用などお客様からの高い評価をいただいています。

今後も環境方針のもと研究開発、原料調達、生産、流通販売、塗装を経て廃棄に至るまでのライフサイクル全体を通して環境影響を最小とすることによって、環境と調和した事業活動を推進してまいります。

併せてレスポンシブル・ケア(RC)活動や環境マネジメントシステム(ISO14001)を通じ「環境・安全・健康」の向上と社会との積極的な対話・コミュニケーションに努め、環境や社会に貢献できる企業活動を進めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



取締役常務執行役員 管理本部長 永野 達彦

環境方針

大日本塗料株式会社は、「環境負荷が小さく持続可能な経済社会を築いていくことが重要である」との認識のもと、地球規模の環境保全活動を継続的かつ着実に推進しながら、塗料及び関連製品の開発・製造・販売を通じ社会に貢献する事を基本とする。活動は、以下の環境方針に基づき全員が一致協力して行う。

1. 製品の研究開発から生産・販売・サービスを経て廃棄に至るまでのライフサイクル全体に渡り、事業活動から生じる環境への影響を常に的確に評価・把握できる環境マネジメントシステムを確立し、実施し、環境汚染を予防する。
2. 環境マネジメントシステムを実施、維持し、PDCAサイクルによる継続的改善を図る。
3. 事業活動、製品及びサービスに係わる環境関連法規制、並びに当社が同意するその他の要求事項を遵守することを約束する。
4. 環境保全推進のため、次のテーマを重点的に取り組む。これらの活動は、環境方針に基づき、目的・目標を立て計画的に実施すると共に、内容を定期的に見直し、改善する。
 - ① 環境負荷低減を可能にする塗料及び関連製品の開発、販売
 - ② 揮発性有機化合物の適切な管理と削減
 - ③ 産業廃棄物の発生抑制とリサイクル促進
 - ④ 省エネルギー並びに地球温暖化防止活動
5. 環境方針は文書化し周知徹底すると共に、グループ会社を含めた全従業員(パート、派遣社員等を含む)に対し環境教育を行うと共に、当社の事業活動に関与する人も含めて、環境保全に対する理解と意識の向上を図る。
6. この環境方針は一般に公開する。